

## ネズミの集落一斉防除におけるBSの試行について

村民だより 9月号

## 父島・母島のネズミ対策について



## 【小笠原のネズミのこと】

外を歩いていると、ネズミが道路などを横切っていくのをよく見かけませんか？

父島にはクマネズミとハツカネズミ、母島には加えてドブネズミがあり、これらのネズミは全て外来種であり、生態系のほか、食品や農作物を食い荒らす、家具や配線をかじるなど、私たちの生活にも様々な影響を与えています。

また、小笠原の世界自然遺産の価値を守る取組としてネコ対策を進めており、アカガシラカラスバトなどが身近になってきたという成果がある一方で、ネズミの被害や目撃機会が増えたとの声を多くいただいています。これに関しては、ネコ対策のほか、気象やネズミのエサとなる植物の豊作・凶作などの影響が考えられますが、はっきりとした因果関係は解明されていません。

無人島では生態系を守るためにネズミ対策が進められており、父島・母島でも対策を考える必要があります。まずは各人で自身の財産を守るための自主防衛と、これ以上数を増やさないための取組が重要です。この具体的な方法などについてお知らせします。

## 【私たちができること】

## ■ネズミが生息しづらい環境を整え維持する

- エサになるものの撤去、夜間のゴミ出しをしない
- 巣に使われそうな材料の整頓、家周りの草刈り
- 侵入口になるすきまをふさぐ

## ■カゴ罠や殺鼠剤、粘着トラップによる捕獲・駆除

- カゴ罠、殺鼠剤を入れる  
ベイトステーション(BS)  
の無料貸出の活用(環境課・母島支所)
- 農業者等向けの殺鼠剤・  
BS 購入補助\*の活用  
(産業観光課)

\*購入方法・要件等は小笠原アイランド農協にお問い合わせください。



カゴ罠



BS 設置イメージ



BS に充填した殺鼠剤

## 殺鼠剤を使用する際の注意点

殺鼠剤は穀物が主成分です。穀物を好むアカガシラカラスバトやオガサワラカワラヒワなどによる殺鼠剤の誤食を防ぐため、殺鼠剤をBSに入れる方法をお勧めします。

## 【ネズミは食中毒菌のかたまり？】

小笠原では、ネズミをはじめとして、グリーンアノールなどの爬虫類や淡水魚に、高熱と激しい下痢を引き起こすサルモネラ菌が潜んでいます。令和元年度に保健所が行った調査でも、クマネズミからサルモネラ菌が検出されています。

ネズミやそのフンには素手で触らないようにし、もし触ってしまった場合には手洗いをしっかりと行いましょう。

## 【ネズミに関する相談の窓口について】

## &lt;生活環境での被害&gt;

- ◇島しょ保健所小笠原出張所 2-2951
- ◇村役場環境課 2-2270
- ◇村役場母島支所 3-2111

## &lt;農作物食害対策&gt;

- ◇東京都小笠原支庁産業課 2-2125
- ◇村役場産業観光課 2-3114

## &lt;生態系への被害&gt;

- ◇環境省小笠原自然保護官事務所 2-7174
- ◇林野庁小笠原森林生態系保全センター 2-3403
- ◇東京都小笠原支庁土木課 2-2167

## 【関係機関で取り組んでいること】

平成27年度から「有人島におけるネズミ対策にかかる行政連絡会」等で対策を議論しており、小笠原の無人島での対策手法で有人島からネズミを根絶することは、環境影響や技術的な問題等から、現時点では難しい状況です。当面は一斉防除の範囲拡大や効率的な防除方法の検討をするとともに、以下の取組を組み合わせながら、被害の抑制を図ります。

## 自主防衛への支援

- ◇ネズミ対策技術に関する助言・指導
- ◇ネズミ対策技術に関する広報、相談窓口の設置

## 集落地・農地周辺のネズミ被害の低減

- ◇カゴ罠、ベイトステーションの無料貸出
- ◇河川、道路、集落地内園地等の維持管理(草刈り等)
- ◇住居周辺における対策(ごみステーションの衛生指導)
- ◇農地内の殺鼠剤購入補助等

## ネズミに関する生態的情報の収集

- ◇山域におけるネズミ類の増減のモニタリング
- ◇奥村地区でのネズミ類の増減のモニタリング

## 生態系保全のためのネズミ対策

- ◇希少植物の食害防止措置(東平、石門等)

カゴ罠によるネズミの集落一斉防除を行政機関と関係団体で実施します。なお、近接する住宅や事業所等においても同様の取組を一斉に行うことで、防除の効果が高まることが期待されます。

カゴ罠等の貸出(村役場環境課 2-2270・母島支所 3-2111)も受け付けています。ご協力をよろしくお願いいたします。

実施期間 母島：9月9日(月)～9月13日(金) 父島：10月7日(月)～11日(金)

今回から一部の行政機関と関係団体の施設において、殺鼠剤を充填したBS設置による防除を試行します。

試行期間 母島9月9日(月)～9月20日(金) 父島：9月30日(月)～10月11日(金)

期間中はBS周辺にネズミの死亡個体が多く出る可能性があるため、概ね毎日点検を行い、死亡個体は回収する予定です。

# BSによるネズミ防除にご協力いただける皆さまへ

殺鼠剤を使ったネズミ駆除を行う場合、今回使用する殺鼠剤は穀物が主成分のため、穀物を好むアカガシラカラスバトなどが誤って食べてしまう恐れがあります。そのため、殺鼠剤をベイトステーション(BS)に入れて使用することで、野鳥をはじめとした在来生物にとっても安全な方法でネズミ対策が可能です。

## BSの使用方法

- ・村役場環境課から配布したBSに殺鼠剤を充填(BS内は2つの部屋に分かれており、殺鼠剤をすり切りで充填すると200g/部屋、2部屋で約400g。)
- ・10~20m程度の間隔で設置(カゴわなの半分数が目安)
- ・月曜日に設置し、翌週の金曜日の12日目にBSを撤収(一斉防除期間中に殺鼠剤の補充はしない)
- ・設置した箇所周辺(道路含む)を概ね毎朝点検し、ネズミの死体が確認された場合は個体数をカウント、点検表に数を記入し、死体を回収・処分(埋設、コンポスト化)
  - 死体は防除実施者それぞれで処理することが基本だが、困難な場合は、一斉防除期間に限って役場に持ち込みも可能

## ※継続して設置する場合

- 設置した箇所周辺(道路含む)の点検は、集落であることから概ね毎朝点検し、ネズミの死体が確認された場合は回収・処分すること
- 2~3週間程度ごとにBS内を点検し、殺鼠剤(粒剤)を補充すること
- 殺鼠剤の充填量は消費量に応じて200~400g

## BSの効用

- ・風雨による殺鼠剤の劣化抑制
- ・殺鼠剤の子供やペットによる誤食や野生動物による摂食の防止

## ダイファシノン

- ・使用する殺鼠剤ヤソジオンの有効成分はダイファシノン(濃度0.005%)、残りの成分はほとんど穀物で、ネズミでも複数回食べないと致死しない程度の毒性
- ・第1世代抗凝血性剤(血を固まりにくくする薬剤。血液をサラサラにする治療に使われることもある。)
- ・小笠原の無人島でのネズミ駆除における使用実績があり、他の生き物への影響の検証がされている

★点検表 下表に記入後、切り取って村役場環境課に提出してください。

-----切り取り線-----

実施団体名：

BS設置数：

基

日	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
曜日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
回収数												
防除前の印象(ネズミの目撃頻度、被害等)						防除後の印象						